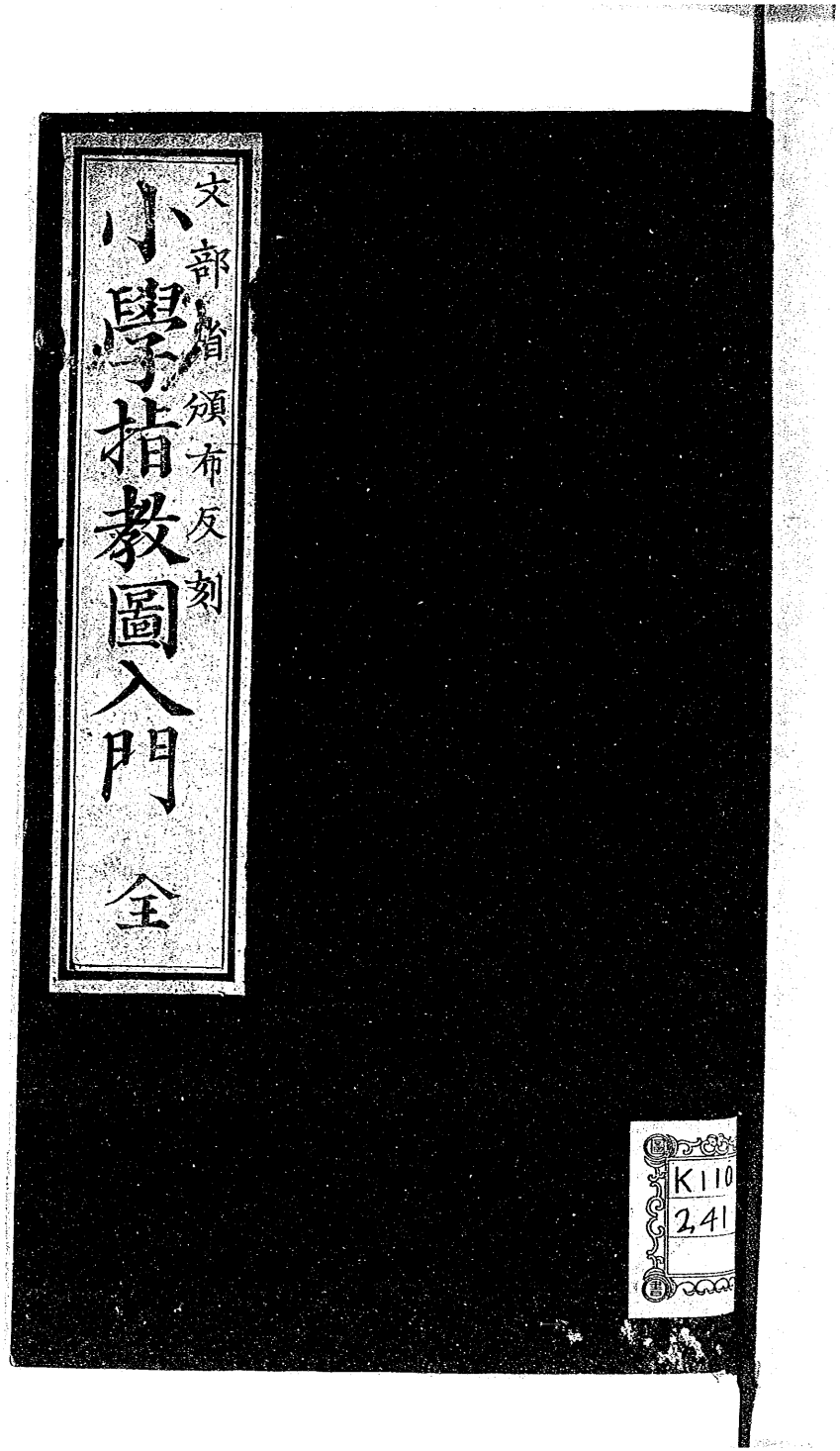


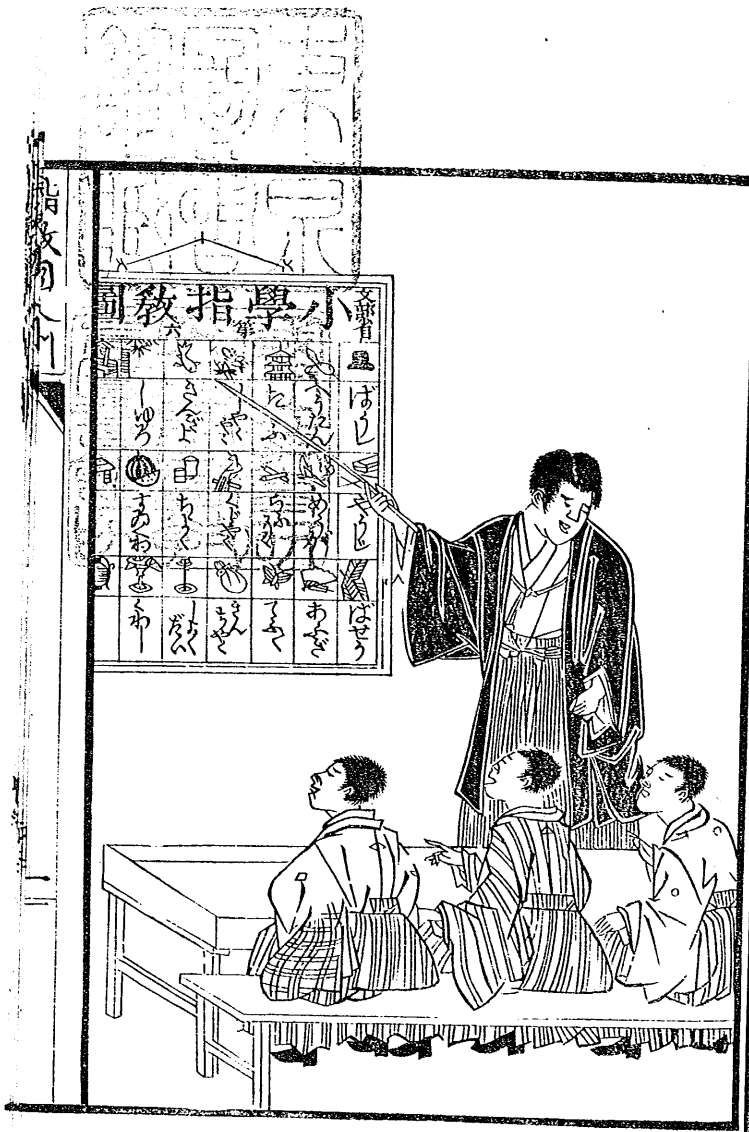
A1
65.8
K110
2,41

左右両頁露光量調整、重複撮影

文部省藏版

小學指教圖入門

明治十六年翻刻　南枝堂



左右両頁露光量調整、重複撮影

文部省藏版

小學指教圖入門

明治十六年翻刻 南枝堂

小學指教圖　第一

いろはにほへとち	
りぬるをわかよた	
れそつねならむう	
ゐのおくやまけふ	
こえてあさきゆめ	
みしゑひもせす	

指教圖

ア	カ	サ	タ	ナ
イ	キ	シ	チ	ニ
ウ	ク	ス	ツ	ヌ
エ	ケ	セ	テ	ネ
オ	コ	ソ	ト	ノ

第二

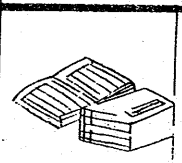
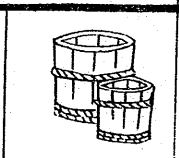
ハ	マ	ヤ	ラ	ワ
ヒ	ミ	イ	リ	井
フ	ム	ユ	ル	ウ
ヘ	メ	エ	レ	ヱ
ホ	モ	ヨ	ロ	ヲ

指教圖

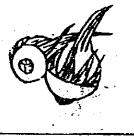
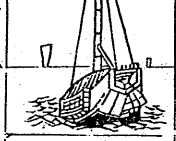
ガ	ザ	ダ	バ	パ
ギ	ジ	ヂ	ビ	ピ
グ	ズ	ヅ	ブ	プ
ゲ	ゼ	デ	ベ	ペ
ゴ	ゾ	ド	ボ	ポ

第三

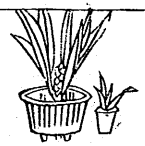
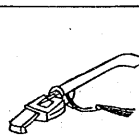
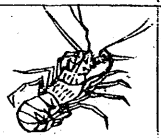
ン	一	六	百
丁	二	七	千
匹	三	八	万
什	四	九	
メ	五	十	

いぬ	ほん	をけ	そば
はし	ちまき	かに	つる

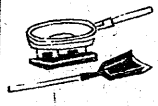



なべ	うぐひす	くわる	ふね
むぎ	たもと	やたて	ほたび

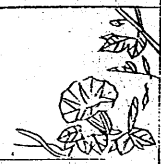




あぢ
きのこ
めじろ
せみ
さる
ゆず
ひよどり
すだれ

びは
うちは
こひ
いへ
くは
たひ
たらひ
はへ

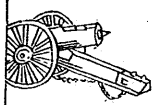


かへる　おはなみ　きつす　じふのう

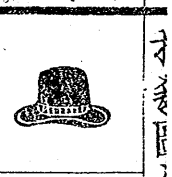


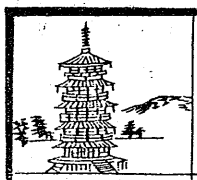
ほぐづき　あさがほ　ゆかた　らつぱ

すつぽん　かつもり　たがらし　かぶだう

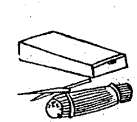
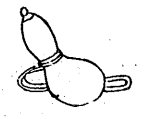
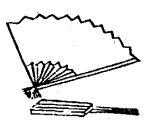


あうむ　さつし　ぶだう　たばこ

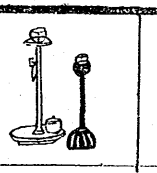




ぼーし　ばせう　めうが　たふ

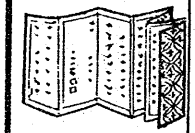
やうじ　てうたん　あふぎ　らふそく



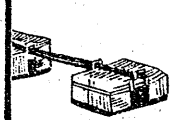
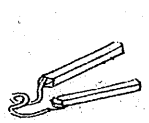
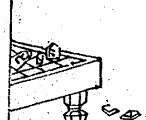
てふく　くじやく　きんぎよ　しやもじ

きんちやく　ちよく　しやもじ

しやもじ　ちよく　しやもじ



すゐくわ　きやうだい　ちやうちん　びやうぶ

くわし　しやうぎ　ひやうぎ　りやうがけ

文部省

小學指教圖

珠算呼聲
九九合數

一一一	一二二	一三三	一四四	一五五
一六六	一七七	一八八	一九九	二二四
二三六	二四八	二五十	二六十二	二七十四

文部省 小學指教圖

加算並減算呼聲

一九足十	二八足十	三七足十	四六足十	五五足十
二八十六	二九十八	三三九	三四十二	三五十五
三六十八	三七二十一	三八二十四	三九二十七	四四十六
四五二十	四六二十四	四七二十八	四八三十二	四九三十六
五五二十五	五六三十	五七三十五	五八四十	五九四十五
六六三十六	六七四十二	六八四十八	六九五十四	七七四十九
七八五十六	七九六十三	八八六十四	八九七十二	九九八十一

七三足十	八二足十	九一足十	
一引九残	二引八残	三引七残	
四引六残	五引五残	六引四残	
七引三残	八引二残	九引一残	

文部省

小學指教圖

除算呼聲上（九歸法）

一進一十	二進一十	三進一十	三三六十二
三進一十	四二添作五	四三七十二	四進一十
五一加一	五二加二	五三加三	五四加四	五進一十

六一下加四	六三三十二	六三添作五	六四六十四	六五八十二
六進一十	七一下加三	七二下加六	七三四十二	七四五十五
七五七十一	七六八十四	七進一十	八一下加二	八二下加四
八三下加六	八四添作五	八五六十二	八六七十四	八七八十六
八進一十	九一下加一	九二下加二	九三下加三	九四下加四
九五下加五	九六下加六	九七下加七	九八下加八	九進一十

小學指教圖

文部省

除算呼聲下

撞除法

見一無頭作九一	歸一倍一	
見二無頭作九二	歸一倍二	
見三無頭作九三	歸一倍三	

見四無頭作九四　歸一倍四
見五無頭作九五　歸一倍五
見六無頭作九六　歸一倍六
見七無頭作九七　歸一倍七
見八無頭作九八　歸一倍八
見九無頭作九九　歸一倍九

連語圖第一

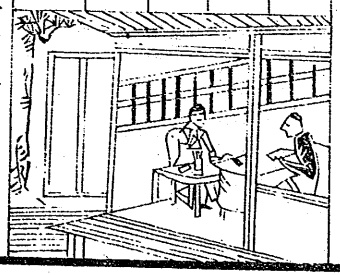
神　人　天地　萬物　主宰　善道　信義
祖父　祖母　父母　伯父　叔父　伯母
叔母　親　子　兄弟　姉妹　親愛　友愛

神ハ天地の主宰まして人ハ萬物の靈なり○善道を以て身を脩め信義を以て人ゝ交る○親子の間ハ親愛を主とし兄弟の際ハ友愛を專とす○親の父を祖父といひ親の母を祖母といふ○親の兄弟を伯父叔父といひ親の姉妹を伯母叔母といふ

連語圖第二

學校　書物　手習　算術　事物　文字
授業　午前　午後　運動　遊歩

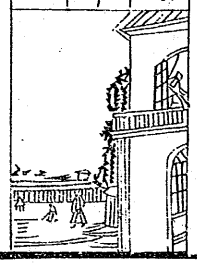
學校ゟ出てゝは　書物を讀み　又手習をべし
○書物は事物の理を知り　手習は
文字の形を學ぶ○授業の始は午
前七時　授業の終は　午後三時
なり○讀み書きの外は　算術を
學ぶべし○遊歩を為すは　運動
のため○運動を為すは氣を散じ體を養ふが為
運動をいれば　又　書物を　讀み手習し　算術を學ぶ



連語圖第三

其處　此處　何處　何時　往く　歸る
彼の　此の　彼　是　近き　遠き　町里
朋友　親類　學問　智識　家業　富

君は其處に居て書物を讀み予は此處に
在りて手習す○彼の小兒は何處へ往きし
や此女子は何時歸りしぞ○彼は近き處の
朋友の宅に往き是は遠き處の親類の家より歸る○
近き處は二三町にすぎず遠き處は五六里に餘まり　彼の
朋友は常に學問を好み是の親類は能く家業を勵む○
學問を好めば智識を増し家業を勵めば富を致す



連語圖第四

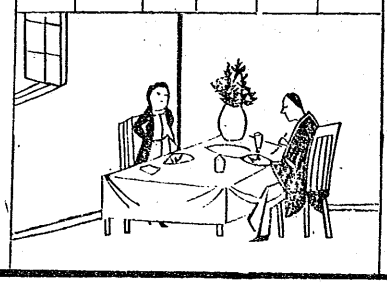
地球　日　月　晝　夜　今年　去年　春
夏　秋　冬　東　西　南　北　風　雨
霜　雪　寒　暑　雷　林　叢　花開　蟲鳴

地球は日を周りて轉じ月ハ地球に隨ひて環る○日のある間を晝といひ日の隱まして後を夜といふ○朝日のかゝを東とし夕日の方を西とし去年の秋ハ冷まして霜早く今年の春ハ暖まして雨をくなし春の日ハ林に花開き秋の夕ハ叢に蟲鳴く○夏ハ南風多く冬ハ北風多し夏ハ暑くしてをりく雷鳴り冬ハ寒くしてときく雪降る暑き時ハ草木茂り寒き時ハ泉水凍る

連語圖第五

穀類　魚類　獸肉　鳥肉　野菜　菓物
水　乳汁　酒　烟草　養生　健康　勉强

日本の人は常に穀類魚類を食し西洋の人ハ常に獸肉鳥肉を食す○野菜ハ煮たるを食ふべく菓物は熟せざるを食ふべからず○水と乳汁ハ健康をたすけ酒と烟草ハ養生に害あり○勉强は健康より生り健康は養生より来る○養生の人は食物と飲物をえらび勉强の者は朝寢と晝寢を戒む



連語圖第六

衣服　木綿　麻　絹　毛織　單　帷子
袷　綿入　襦袢　羽織　帽　袴　長靴
足駄　草履　履

衣服の料ハ木綿あり又麻絹毛織あり
暑き時ハ薄き衣服を著寒き時ハ厚き
衣服を著る○薄きハ單、帷子にて厚きハ
袷、綿入あり○袷ハ合せたるもの綿入ハ
綿を入まとるなり○肌に貼くるハ襦袢にして表に服する
ハ羽織なり○帽をかぶり袴を著る○雨の時ハ足駄をはき
又長靴をはく晴の日ハ草履を用ゐ又履をはく

連語圖第七

大工　左官　家　柱　壁　屋根　下地　軒　中塗　上塗
棚　押入　疊　建具　木　瓦　石　机　書架　墨　硯　筆
紙　和漢　西洋　庭　池　春秋景色　朝夕眺望

大工ハ家を造り左官ハ壁を塗る○家ハ柱を立てゝ後に
屋根をふき壁ハ下地を作りて後に土をぬる○屋根より
軒をつけ中塗より上塗をなす○棚、押入をつけ疊、建具
を入る○我邦の家ハ木にて作り西洋の家ハ瓦石にて疊む
○前に机を居ゑ後に書架を置く○机にハ墨、硯、筆、紙を載せ
書架にハ和漢西洋の書を積めり○庭にハなまとの花を栽ゑ
池に多くの魚を畜ふ○春秋の景色もなり朝夕の眺望もよし

連語圖第八

起臥饑飽賢愚富貧老幼
教問恥覺藝誨厭急緩走
歩躓疲無益有用珍賤弄棄

朝は五時に起き夜は十時に臥て働く時は勞を厭はず食するときは飽くを求めず○賢き人には事を習ひ愚なる人には物を教ふ○知らぬ事は知りたる人に問ふを恥ずべし○覺えし藝は覺えぬ者に誨ふるを厭ならず○急に走るときは速けれども躓くことあり緩く歩むときは遅けれども疲るゝこと少し○無益の物は珍しと雖弄ぶべからず有用の品は賤しと雖棄つべからず

連語圖第九

前後左右勉惰難易早遲破堅固
長短强弱優劣剛柔曲折撓逆

すべて事前にのみいそげば後は必おろそかになり左を乃みあぐれば右は必ひきくなる○勉むるとは惰らぬこと惰るとは勉めぬこと○勉むる時はかたき事も成り易く惰る時は易きことも成り難し○早く成るものは破れ易く遲くなるものは堅固なり○長きにほくれば反りて短きに劣る事なり弱きを守れば遂に强きに優るときなり○剛きものは折るゝことなり柔なるものは曲ることなり撓まれば折れざるは剛の德曲らば逆らはざるは柔の德なり

連語圖第十

秤目は十毛を一釐といひ○十釐を一分といひ○十分を一匁といひ○千匁を一貫目といふなり

尺の名は十毛を一釐といひ○十釐を一分といひ○十分を一寸といひ○十寸を一尺といひ○十尺を一丈といふなり

升目は十才を一勺といひ○十勺を一合といひ○十合を一升といひ○十升を一斗といひ○十斗を一斛といふ

地割は六尺四方を一坪といひ又一歩といふ○三十歩を一畝といひ○十畝を一段といひ○十段を一町といふ

路程は六十間を一町といひ○三十六町を一里といふ

文部省御藏板小學校用書飜刻所
明治十六年二月九日反刻御届
仝年三月出板
大阪府平民書肆南校堂主
西川音三郎
西区江戸堀南通五丁目一番地住

發兌

大阪	岡田	茂兵衛
仝	前川	善兵衛
仝	柳原	喜兵衛
仝	森本	太助
仝	前川	源七郎
仝	三木	佐七
仝	淺井	吉兵衛
仝	岡嶋	真七
大阪	吉岡	平助
仝	梅原	亀七
仝	渋川	德次郎
池田	八木	正厚
平野	山口	省三
奈良	阪田	一郎
牧方	夛田	喜平次
八尾	松永	傳兵衛

定價金六錢